

令和8年度

徳島県立川島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○課題解決に向けて探求していくなかで、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びのある授業の実践
○6年間を見通した計画的・継続的な中高一貫教育の推進

校長

黒田 収

学力向上推進員

松尾 百代

【各校の取組状況の把握について】

中高合同の授業見学や学習状況調査など、さまざまな機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目で、授業に前向きに取り組むので、授業の内容が理解できている生徒が多い。 ○タブレット端末の操作に慣れてきている。 ●家庭学習等で復習する習慣が身に付いておらず、知識が定着していない生徒がいる。	・知識や技能を身に付ける必要性や方法がわかり、自学・復習できる自律的な学習習慣が身に付いている。 ・ICTを活用することができ、自分に必要な情報を必要な場面で収集・選択できる。	・小テスト・単元テスト等を行い、スモールステップで「できる」を実感させるとともに、復習の仕方を身に付けさせる。 ・質問タイムで、わからないところを質問できるようにする。 ・ICTの活用の仕方を教える。 ・タブレット端末を活用し、自分のペースで、くり返し学習に取り組めるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○進んで話し合いに参加し、意見を交換したりまとめたりすることができる。 ○タブレット端末を使用して、自分の考えを表現できる。 ●状況から判断し、主体的に考えて行動することが難しい生徒が多い。 ●伝えたいことがあっても、伝える方法や過程を工夫し表現することが苦手である。	・探究活動を通して、自ら課題を設定し分かったことや自分の考えを分かりやすく表現することができる。 ・物事を多面的・多角的に見る力をつけることで主体的に考え行動できる。	・探究学習の過程の流れについて教員間で共有し、フォーマットをつくるなどして、流れを理解させる。 ・ICTを活用して、意見交換や発表等の言語活動を行う。また、自分と他者との意見を比較・検討し、多面的・多角的に考えられるようにする。 ・探究の過程を可視化することで、表現を工夫させる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学校生活を送ることができており、学習意欲が高い生徒も多い。 ●家庭学習の時間を確保することが難しく、計画的に課題に取り組んだり、苦手分野の学習に時間を注いだりすることが難しい。	・目標や見通しをもって、学習に取り組むことができる。 ・自分に合った学習方法を見つけ、家庭学習の時間を大切に継続して学習に取り組むことができる。	・至誠ノートを活用して、計画的に学習に取り組んだり、振り返りを行ったりすることができるようにする。 ・中高一貫教育校の特色を生かし、総合的な学習の時間を中心として他学年の生徒や高校生との交流を図るなど、進路指導を充実させ、将来の展望をもたせる。 ・さまざまな学習方法を示し、生徒が自分に合った方法を試すことができるようにする。			